

teniteoクリニック

子どもの症状別に、気をつけたいポイントやお家で出来る正しい対処法を先生に教えて頂きます。

今月のテーマ

手足口病

<対象年齢> 0～4歳>

子どもの間で流行する感染症
これからの季節は「手足口病」に注意！

手 足口病は名前の通り、手と足、口の中に発疹を生じる病気です。4歳までの子どもを中心に、夏から秋にかけて流行します。ウイルスによる感染症で、症状は軽いことが多く、自然に治るため、ワクチンや治療薬はありません。感染して3～5日の潜伏期間の後、2～3ミリ程度の小さい水ぶくれや赤い発疹が、手の平や足の裏、口の中をはじめ、肘やひざ、おしりや太ももにも出ることがあります。痛みやかゆみはなく、1週間程度で乾燥し消えていきますが、足の裏にできると、歩く時に痛むことがあります。口

の中にできた場合、口内炎のように痛み、ひどい場合は水分や食事がとれなくなることもあります。発熱はほとんど無く、あっても微熱がほとんどで38℃を超えることは稀です。最近のケースでは、水ぼうそうと見間違えるほど広範囲に水ぶくれができたり、皮膚の症状が治ってから数週間後に爪が変形し剥がれ落ちるなどの症状も見られます。稀に中枢神経や心臓に重篤な合併症を引き起こす可能性があるため、高熱が続く、けいれん、激しい頭痛や嘔吐などの症状や、元気が無くむくみがある場合には、必ず病院を受診しましょう。症状が無い場合でも、脱水にならないよう少しずつこまめな水分補給を心がけましょう。

手足口病の予防ポイント

手足口病の多くは咳や唾液、糞便を介し、人から人へと感染していきます。予防のポイントをおさえ、日頃から無理なく予防に努めましょう。

毎日の習慣として

●手洗い・うがい

外から帰った後、食事の前、トイレの後などには、流水・石鹸による手洗い、うがいを行いましょう。一度感染したら、手足口病にはもうならないということではなく、別の種類のウイルスにより、何回も手足口病になることがあります。継続した手洗い・うがいの習慣を心がけましょう。



感染したら

●接触した部分を消毒

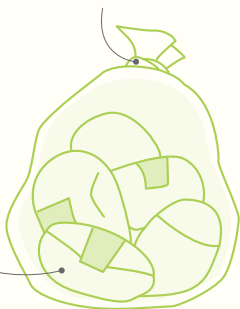
ノロウイルスと同様に塩素系の消毒薬でウイルスは殺菌されます。排便後のトイレの便座などの消毒は塩素系の消毒薬を用いるとよいでしょう。また除菌シートなどでテーブルなど身の回りのものを拭き、ウイルスとの接触を減らすようにしましょう。



●便の処理は適切に

症状が治まってからも1か月程度は、便の中にウイルスが含まれています。また感染しても症状が出ない場合があり、その場合も便中にウイルスが含まれていることがあります。適切に便の処理を行い、オムツの交換をした大人も手洗いを忘れないようにしましょう。

口はしっかり縛り、密閉する



ビニール袋に入れてその都度捨てる

●監修
萩原 里香先生



平成26年より名古屋掖済会病院皮膚科勤務。幅広い年齢層の炎症性皮膚疾患から皮膚腫瘍まで診療、わかりやすい診療を行っています。



名古屋掖済会病院

愛知県名古屋市中川区松年町4-66

☎052-652-7711 ⑧土・日・祝、年末年始

<診察時間> 初診 / 8:00～11:30、再診 / 7:30～11:30

http://www.nagoya-ekikaihosp.jp/